

稲・麦・大豆かわら版

～水稻編(出穂期前後の管理)～

2025.7.10 発行
 栃木県塩谷南那須農業振興事務所
 経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

<管内水稻生育診断ほ調査結果>

- ・出穂期は前年並みに早くなる(表1)と予測される(7/7時点の幼穂長から推定)。
- ・前年に比べ、草丈は長い、茎数は少ない～やや多い、葉齢は並、葉色(葉色板)は並～濃い(表3)。

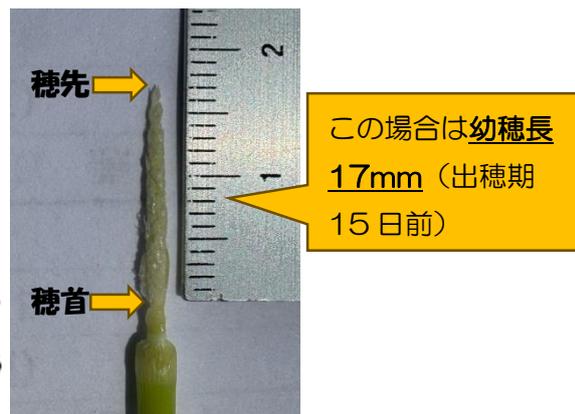
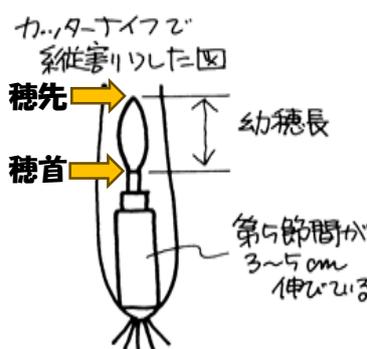
表1 管内の出穂期予測

地域	品種	移植日	幼穂長 (7月7日時点)	予測される 出穂期	R6年産 出穂期	過去5年 (R2~R6) 平均出穂期
塩谷町	コシヒカリ	5/3	8.0mm	7月25日頃	7月25日	7月28日
那須烏山市	コシヒカリ	5/4	16.4mm	7月22日頃	7月19日	7月24日
さくら市	とちぎの星	5/12	1.0mm	7月31日頃	7月30日	8月2日

※出穂期：全茎の40～50%が出穂した時期

表2 コシヒカリ出穂前日数と幼穂長の関係

幼穂長 (mm)	出穂前日数
0.3	30日前
0.8	25日前
4	20日前
17	15日前
73	10日前



※「新版安心イネづくり」より

表3 水稻生育診断ほ調査結果(令和7年7月7日調査)

調査地点	品種	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色 (葉色板)	生育診断値 (葉色×茎数)
塩谷町 (玉生)	コシヒカリ	5/3	86.2 (115%)	405 (79%)	11.8 (+0.2)	3.6 (-0.1)	1,461 (77%)
那須烏山市 (南大和久)	コシヒカリ	5/4	91.4 (119%)	443 (108%)	11.9 (-0.4)	4.1 (±1.0)	1,796 (137%)
さくら市 (狭間田)	とちぎの星	5/12	75.4 (113%)	367 (72%)	11.2 (-0.2)	3.8 (+0.1)	1,391 (74%)

※()内は前年比または前年差

※今年度から那須烏山市のほ場を福岡から南大和久へ変更

7月～8月は「農作業中の熱中症による体調不良」が増加します。



- 夏の作業で、以下のことに気をつけましょう
- ・日中の気温の高い時間帯での作業は控えましょう。
 - ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
 - ・体調不良の症状が見られたら、すぐに作業を中断しましょう。
- ※令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行され、**体制整備・手順作成・関係者への周知が事業者**に義務付けられています。



厚生労働省
リーフレット

<今後の管理のポイント>

- 水管 理：落水時期（出穂期後 30 日以降）まで、間断かん水を基本とする。
- 高温 対 策：出穂後に高温が予想される場合は、夜間かん水で地温を下げる。
- 斑点米カメムシ類対策：薬剤防除と除草を組み合わせ、不稔や斑点米を防ぐ。

1 水管理・高温対策

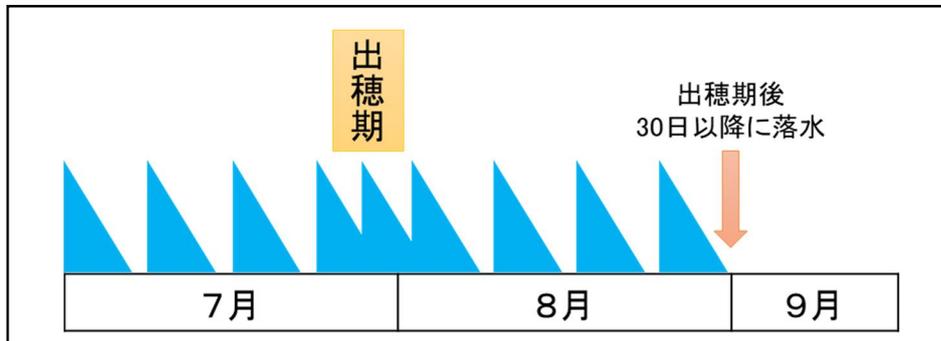


図1 水管理のイメージ

<水管理は間断かん水が基本！>

- 落水時期（出穂期後 30 日以降）まで、引き続き間断かん水を行う。
※間断かん水：足跡に水がたまる程度まで自然に落水し、その後、入水を繰り返す。
- 出穂期前後は最も水を必要とする時期なので、こまめに間断かん水を行う。

<高温対策は夜間かん水と収穫7～10日前までの走り水！>

- 出穂期から 20 日間のほ場内水温・地温を下げることで、胴割粒や白未熟粒の発生が少なくなるので、高温が予想される場合は夕方から夜間にかん水を行い、地温を下げる。
- 落水時期は出穂期後 30 日頃とする。ただし、その後も高温・多照が続く場合は、収穫7～10日前まで走り水を行う。

2 斑点米カメムシ類対策

	出穂前	出穂期	穂揃期	乳熟初期	乳熟後期以降
薬剤防除	イネカメムシ以外の 斑点米カメムシ類			薬剤防除 1回目 斑点米防止	薬剤防除 2回目 斑点米防止
	イネカメムシ		薬剤防除 1回目 不稔防止	薬剤防除 2回目 斑点米防止	追加防除 3回目 斑点米防止
畦畔 除草	①草刈	②草刈			

出穂期2～3週間前

※①②の草刈りができない場合は、水稻の出穂期10日前までに必ず草刈りを実施する

図2 斑点米カメムシ類の総合防除体系

<斑点米カメムシ類対策は出穂期後の薬剤散布と畦畔2回草刈り！>

(1) 薬剤防除

- 出穂期（イネカメムシが発生している場合）
 - 不稔防止のため薬剤防除（液剤）を実施する。
- 乳熟初期（出穂期7～10日後、全ての斑点米カメムシ類の防除適期）
 - 穂揃い期に水田をよく観察し、斑点米カメムシ類を確認した場合は、斑点米防止のため薬剤防除（液剤）を行う。※粒剤は処理を数日早める。
 - その後も発生が多い場合は、7～10日間隔で1～2回の追加防除を実施する。

(2) 水田周辺の除草

- イネ科雑草は水田内への誘引源、幼虫の発生源、水田内へ侵入するための中継点となる。
- ①水稻の出穂期2～3週間前の草刈り＋②水稻の出穂期頃の草刈りを行う。
- 草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制効果は最大3週間なので、2回目の草刈りが遅れないようにする。
- 水稻の出穂期 10 日前までに必ず1回は草刈りを実施する。